



ほうき 東行庵 帚の会

吉田の東行庵で活動をしている地元の奉仕団体「東行庵帚の会」。平成30年度の清掃美化優良団体として県知事表彰を受けました。今回は、「東行庵帚の会」を紹介します。

先人への思いと
ほうきが結ぶ
人のつながり

高杉晋作と東行庵

1867年、維新の英傑として27年8カ月の生涯を終えた長州藩士、高杉晋作。死後、遺言により奇兵隊陣屋の吉田の地に弔われ、愛人おうの（梅処厄）らによって「東行庵」として守られてきました。「東行」とは「西へ行く人を慕いて東行く、わが心をば神や知るらむ」と晋作が詠んだ句から、自らが名乗った名前です。打倒すべき東（江戸）に不屈の思いで向かう、晋作の並々ならぬ思いが詰まっています。晋作のお墓は代々守られ今日に至



り、国の指定史跡になっています。また、今年、高杉晋作生誕180年を迎えます。

25年にわたる清掃活動

「東行庵帚の会」は晋作の月命日である毎月14日に東行庵の清掃活動に取り組んでいます。同会は平成6年に設立され、会員は35人、メンバーは60歳から80歳代で、多くは吉田に住んでいる方で構成されていますが、市外の山陽小野田市や周南市に住んでいる方も参加しています。明治維新150年を迎えた昨年、25年近くにわたる活動が評価され、清掃美化優良団体として県知事表彰を受けました。

ほうきでつながる人の輪

会員が清掃活動をしている朝の東行庵を訪れました。広い境内をほうきで掃く心地よい音が響きます。この日は会員の約20人が朝8時から9時まで、石段や墓石と墓

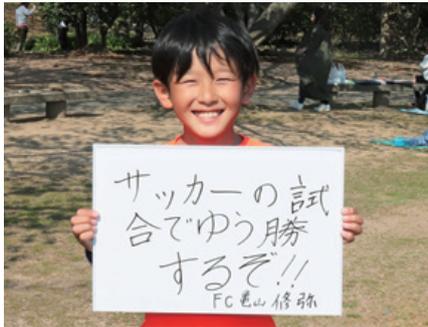
▶高杉晋作銅像





まちかどボイス

今月のテーマ
令和元年の挑戦



◀会長の齋藤さん
「体が動く限り清掃活動を続けたいですね」



▶笑顔で清掃をする
箒の会の皆さん
「四季が楽しめるのも
東行庵の魅力です」

石の間に落ちた紅葉などを丁寧にほうきで集め、清掃していました。会長の齋藤さんに話を伺いました。「活動内容としては、ほうきで墓の清掃をするというとてもシンプルなものですが、25年もの間この活動が続いているのは、先人への尊敬の念が引き継がれているからではないかと思っています」

東行庵には、奇兵隊や諸隊士の墓が約140柱ありますが、諸隊士の中には若くして亡くなったため、直系の子孫がいない人も多いといえます。そのため、東行庵は住民が維持、管理に尽くしてきました。「命を賭して、維新を成し遂げた先人の墓所をきれいにするのは当然のことだと思います」と齋藤さん。「遠方から東行庵に来られる方もた

くさんおられるので、きれいにしておいて、気持ちよく参拝してもらいたいですね」

清掃をしながら、会話が弾んでいる会員の様子に、「会員は小・中学校の同級生が多く、毎月の活動は、同窓会のようにとてもにぎやかです。清掃作業を終えると、身も心も洗われて、すがすがしい気持ちになります」と齋藤さんは笑います。

人づてに箒の会の話が広まっていき、数カ月前にも新たに活動に参加された方もいます。「箒の会は今では、私たちの憩いの場となっています。興味のある方はぜひ参加してください」。先人への尊敬の思いとほうが結ぶ、人のつながりの輪は、広がっています。

編集後記

■令和の始まりとともに、広報紙も一新。「市民の皆さんの笑顔が主役」をテーマにリニューアルしました。市報の発信力もさらに強化します！（わ）

■まちかどボイスで快く取材に協力いただいた皆さんありがとうございました。これからも多くの方に市報に登場していただくよう頑張ります。（き）

■初編集でした。市政を分かりやすく伝え、下関の魅力も発信し、下関愛が深まる市報にしたいと思います！ よろしくをお願いします。（ひ）